

1-2.将来推計人口のつづき

年	2010 (H22)	2020 (H32)	2030 (H42)	2040 (H52)	2100 (H112)	人口のピーク
低 位	12,683	12,122	11,258	10,183	3,770	2005年、12,777
中 位	12,718	12,274	11,522	10,570	4,771	2005年、12,777
高 位	12,746	12,423	11,835	11,053	6,407	2006年、12,778

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成18年12月推計)より作成

注.「高位」「中位」「低位」とは、合計特殊出生率の将来の仮定

高位: 2005年の1.26から直ちに上昇に転じ、2055年には1.55の水準に到達

中位: 2005年の1.26から2030年に1.24まで低下後上昇に転じ2055年には1.26の水準に到達

低位: 2005年の1.26から2030年に1.04まで低下後上昇に転じ2055年には1.06の水準に到達

1-3.将来の都道府県別人口と人口2050年/2005年比

将来の都道府県別人口

出生率中位推計の2050年までの延長

(単位:千人、%)

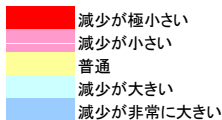
	実績値		人口問題研究所予測値		延長予測値	
	2005年	2020年	2035年	2050年	2050年/2005年	
全国	127,768	122,735	110,679	95,152	74.5%	
北海道	5,628	5,166	4,413	3,552	63.1%	
青森県	1,437	1,266	1,051	795	55.3%	
岩手県	1,385	1,234	1,040	802	57.9%	
宮城県	2,360	2,231	1,982	1,670	70.8%	
秋田県	1,146	975	783	554	48.4%	
山形県	1,216	1,084	925	719	59.1%	
福島県	2,091	1,902	1,649	1,321	63.2%	
茨城県	2,975	2,790	2,451	2,041	68.6%	
栃木県	2,017	1,934	1,744	1,497	74.2%	
群馬県	2,024	1,908	1,699	1,428	70.6%	
埼玉県	7,054	6,923	6,258	5,497	77.9%	
千葉県	6,056	6,008	5,498	4,888	80.7%	
東京都	12,577	13,104	12,696	11,897	94.6%	
神奈川県	8,792	8,993	8,525	7,843	89.2%	
新潟県	2,431	2,193	1,875	1,479	60.8%	
富山県	1,112	1,019	880	709	63.8%	
石川県	1,174	1,093	960	793	67.6%	
福井県	822	763	676	559	68.0%	
山梨県	885	829	739	619	70.0%	
長野県	2,196	2,021	1,770	1,441	65.6%	
岐阜県	2,107	1,984	1,761	1,476	70.0%	
静岡県	3,792	3,623	3,242	2,764	72.9%	
愛知県	7,255	7,359	6,991	6,391	88.1%	
三重県	1,867	1,779	1,600	1,363	73.0%	
滋賀県	1,380	1,401	1,341	1,230	89.1%	
京都府	2,648	2,533	2,274	1,946	73.5%	
大阪府	8,817	8,358	7,378	6,217	70.5%	
兵庫県	5,591	5,355	4,799	4,104	73.4%	
奈良県	1,421	1,298	1,104	884	62.2%	
和歌山県	1,036	898	738	544	52.5%	
鳥取県	607	561	495	406	66.9%	
島根県	742	656	554	424	57.1%	
岡山県	1,957	1,864	1,677	1,428	73.0%	
広島県	2,877	2,706	2,393	2,003	69.6%	
山口県	1,493	1,321	1,103	841	56.3%	
徳島県	810	730	622	489	60.4%	
香川県	1,012	927	802	646	63.8%	
愛媛県	1,468	1,323	1,127	886	60.4%	
高知県	796	708	596	459	57.6%	
福岡県	5,050	4,884	4,440	3,853	76.3%	
佐賀県	866	804	712	588	67.8%	
長崎県	1,479	1,319	1,117	868	58.7%	
熊本県	1,842	1,712	1,510	1,247	67.7%	
大分県	1,210	1,115	971	791	65.4%	
宮崎県	1,153	1,055	912	735	63.7%	
鹿児島県	1,753	1,595	1,389	1,116	63.6%	
沖縄県	1,362	1,429	1,422	1,349	99.1%	

減少が小さい都道府県 上位5

			2050年/2005年
沖縄県	糸	島	99.1%
東京都	京	都	94.6%
神奈川県	奈	川	89.2%
滋賀県	賀	県	89.1%
愛知県	知	県	88.1%

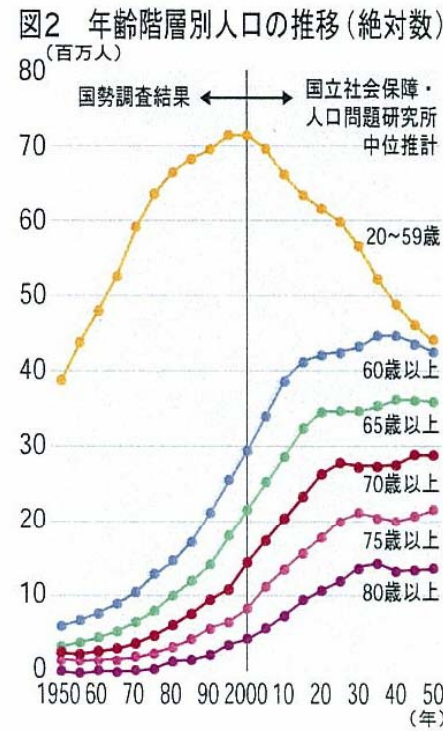
減少が大きい都道府県 5位

			2050年/2005年
秋田県	田	県	48.4%
和歌山県	歌	山	52.5%
青森県	森	県	55.3%
山口県	口	県	56.3%
広島県	根	県	57.1%



70歳以上人口は 2020年に1.8倍に増える

藻谷浩介 日本政策投資銀行地域企画部参事役
エコノミスト 2005.10.25より



2. 2050年の都市の姿

2003年第22回世界ガス会議

2100年に向けた環境調和型都市デザイン国際コンペティション提案

2-1.バンクーバー

バックキャストの結論

「単一システム」アプローチが多大な効果を持っていることが分かる。慎重かつ妥当性の変化率の仮定をしても、グレート・バンクーバーは、資源利用については持続可能なターゲットを達成する。温室効果ガスの排出は、2100年までに、気候変動に関する政府間パネルの年間の一人当たりのCO₂の排出量を1トンとする安定化ターゲットを下回る。